

そう だい
総 題 「キリストにある休み」

だい じ っ か
第 10 課
あんそくにち やす
安息日の休み

やま じ さとる
山地 悟

いち あんそくにち ご
1. 安息日午後

あんそくにち いけん あんそくにち あんそくにち にちようび
安息日について、いろいろな意見があります。安息日はなくなったとか、安息日は日曜日になったとか、クリ
スチャンに安息日は必要でないと考える人がいるのです。

もちろん、セブンスデー・アドベンチストは律法の通りに安息日を守りますが、それは天国に入るための努力
ではありません。今週は、なぜ安息日の休みが大事なのか考えます。

に にちようび あんそくにち そうぞう
2. 日曜日：安息日と創造

じっかい あんそくにち おぼ めい おぼ か こ お で き ごと おも だ あんそく
十戒は、安息日を「覚えて」と命じています。「覚える」とは、過去に起こった出来事を思い出すことです。安息
日に、創造の出来事を思い出す日なのです。

そうせい き いっしようにじゅうろくせつ にんげん かみ か てんちそうぞう ものがたり わたし
創世記 1 章 2 6 節には、人間は神のかたちにつくられたと書いてあります。天地創造の物語は、私
ち人間が神様に似た特別な存在であることを教えています。

そうぞう かみさま にんげん しぜんかい おさ せきん あた じぶんかって ほうほう かみさま
また、創造のとき、神様は人間に自然界を「治める」責任を与えました。自分勝手な方法ではなく、神様の
ように自然界と交わるためです。私たちは、神様が作った地球をこわすべきではなく、大事に守る責任があ
ります。

さん げつようび じゆう いわ
3. 月曜日：自由を祝う

あんそくにち たいせつ りゆう てんちそうぞう おも だ しんめい き ごしようにじゆうに じゆうごせつ
安息日が大切な理由は、天地創造を思い出すためだけではありません。申命記 5 章 1 2-1 5 節によると、
安息日に思い出すもう一つの出来事は、エジプトの奴隷だったイスラエルを神様が解放し、自由にしてあげた出
来事です。エジプトから脱出する日、イスラエルは小羊の血によって救われました（出 1 2 章）。イスラエル
は、神さまの力と働きが彼らを救ってくれたことを思い起こすべきでした。

わたし つみ どれい じぶん ちから じゆう あんそくにち わたし つみ じゆう
私たちも、罪の奴隷です。自分の力で自由になることができません。安息日は、私たちを罪から自由にし
てくださる神様の力を思い出す日です。私たちはキリスト・イエスの血によって救われています。創造の神様
が、私たちのうちに働いて、罪から解放してください。私たちも、キリスト・イエスによって自由に生き
ることができるのです。

よん かようび もん うち たこくじん
4. 火曜日：門の内にいる他国人

イスラエルは世界に福音を伝えるために選ばれました。神様は、イスラエル以外の人々も大切に思っておられました。

出エジプト 2 3 章 1 2 節を読んでください。安息日はユダヤ人だけのものではありません。奴隷、外国人、家畜にも安息日の休みが与えられました。創世記1-2 章によれば、安息日は全ての人類のためにつくられました。安息日は私たちだけではなく、全ての人のためのものです。私たちは創造の神様との関係を持つとき、他の人との関係も大切にするようになります。同じ神様が、すべての人類（動物も）をつくり、命を捨てるほど愛しておられるからです。

ご すいようび たしや つか かみ あんそくにち ほま
5. 水曜日：他者に仕えることは神の安息日の誉れとなる

ヨハネ5 章 7～16 節を読んでください。
イエスは、安息日に男の人の病気を癒し、自由にしました。しかし、指導者たちは、自分たちの規則を守ることだけを考え、その規則を守らなかったイエスを責めました。私たちも、自分の考え方や判断で人を責めないように、注意しなければなりません。
神様は、意味のない礼拝を望んでおられません。私たちが他の人々と交わり、特に助けを必要としている人や苦しんでいる人のために仕えることを望んでおられます。イザヤ 5 8 章 1 3、1 4 節を読んでください。安息日は、自分の楽しみや自分の計画よりも、他の人の必要に心を向けるべき日です。

ろく もくようび わたし かみ
6. 木曜日：私たちが神のものであるしるし

第二次世界大戦中、イギリスの政府は、攻めてくるドイツ軍が困るように、全ての標識を塗りつぶしました。標識は、旅人を導いてくれるしるしで、大切な意味があります。
安息日は何のしるしでしょうか。出エジプト記 3 1 章 1 3、1 6、1 7 節を読んでください。イエスを信じるクリスチャンは、「アブラハムの子孫」と呼ばれます（ガラ3：2 9）。安息日は、イスラエルだけでなく、クリスチャンにとっても、神様との間の特別な関係のしるしです。
安息日は、神様を「知る」ための助けです。安息日は、私たちをつくり、罪から救い、清めてくださる神様を思い出させてくれます。安息日は、社会から見捨てられた人々に対する責任を思い出させてくれます。安息日は、神様が終わりの日に、新しい天と新しい地を作ってくださいを思い出させてくれます。私たちは毎週、神様との関係を思い起こし、イエスによって与えられている休みを経験するよう招かれています。

なな きんようび けんきゆう
7. 金曜日：さらなる研究

「私たちは、1 週間を通して安息日を心に留め、戒めの通りに守るために備えをしなければなりません。」
『教会への証』第6巻 3 5 3 ページ、英文
「この日には、魂のあらゆるエネルギーが目覚めなければなりません。なぜなら、この日は、神と救い主なるキリ

ストにお会いする日だからである。私^{わたし}たちは彼^{かれ}を信仰^{しんこう}によって見上げる。そして彼は、すべての魂^{たましい}に活力^{かつりよく}を満^みたし、祝福^{しゅくふく}したいと切^{せつ}に願^{ねが}っておられる。」(同 3 6 2ページ)

「神^{かみ}が創造^{そうぞう}の働^{はたら}きをおやめになって、安息日^{あんそくにち}に休み^{やす}、これを祝福^{しゅくふく}されたように、人間^{にんげん}も日常生活^{にちじょうせいかつ}の仕事^{しごと}を離^{はな}れて、この日^ひの聖^{せい}なる時間^{じかん}をもっぱら健康^{けんこう}的な休み^{やす}や礼拝^{らいはい}や聖^{せい}なる行為^{こうい}に用^{もち}いるべきである。病人^{びょうにん}をいやされたキリスト^{きりすと}の働^{はたら}きは、律法^{りつぽう}に完全^{かんぜん}に一致^{いっち}していた。それは安息日^{あんそくにち}をととうとぶことになった」(『希望^{きぼう}への光^{ひかり}』
7 6 9、7 7 0 ページ、『各時代^{かくじだい}の希望^{きぼう}』上巻^{じょうかん} 2 5 2、2 5 3 ページ)

<問^とい> 私^{わたし}たちはどうすれば、周り^{まわ}の人々^{ひとびと}のために熱心^{ねっしん}に仕^{つか}える心^{こころ}を養^{やしな}うことができるでしょうか。そのため
の機^き会^{かい}として、安息日^{あんそくにち}をどのように過^すごすことができるでしょうか。